



聞き書き 近江町市場・今昔 その7

江戸時代からのお店

井沢 宏夫 (金沢市・内科)

「近江町市場」に新しくできた「近江町いちば館広場」に、『無添加』を旗印にした「まつや」と言うパン屋がある。開業四年目とまだ間がないが、そのルーツを辿ると「近江町市場」の誕生に尽くした加賀藩の御用商人・越前屋孫兵衛一族につながっている。

十六世紀の昔、前田利家は信長の武将の一人で、各地を転戦し府中(越前・武生)→七尾→金沢と居城を変えたが、府中で初めて「武士をやめ、商人となつて府中に在住していた片岡一族の兄弟新たに家来を募った。以前は武士であったが「下剋上」の無常を感じて「武士をやめ、商人となつて府中に在住していた片岡一族の兄弟



近江町いちば館広場そばの「無添加パンまつや」店主・平松隆さん

(兄・休庵、弟・空遍)がの鑑札をもらい、城への自由な出入りを認められ、城に際しては兵站、兵糧を調達し御用商人として手腕を発揮し、利家の寵愛を受けた。

天正十一年(一五八三)、慶長三年(一五九八)秀吉が死去し、戦の危機が訪れた。昭和四十四年には「近江町市場開設二百五十年記念式典」が挙行された(平成三十年で三百周年を迎え



店内に飾られている「平松屋の半纏」

利家は金沢へ入城したが、二人の兄弟は出身地にちなみ、「越前屋」を名乗った。城の強化を指示し、城の周囲に二本の外濠を計画。東成三十一年(一五八二)に、越前屋は前田家の家紋入り

西二本の堀は数キロに及ぶ大土木工事だったが、越前屋孫兵衛らが先頭に立って総動員で資材を調達。わずか二十七日間で完成させた。当時加賀藩に身を寄せていた築城の名人・高山右近も尽力した。

越前屋は自宅近くに食料貯蔵用の水室を作り、藩に新鮮な食料品を納めた。また、越前屋は代々、城下の人々に食料品を提供する「市場」の必要性を藩に要望し続け、数代後の享保六年(一七二一)に、城下に散在した小市場を統合して、鎧兜や刀なども納めていた。

天正十一年(一五八三)、慶長三年(一五九八)秀吉が死去し、戦の危機が訪れた。昭和四十四年には「近江町市場開設二百五十年記念式典」が挙行された(平成三十年で三百周年を迎えた)。

原稿募集

趣味や旅行記、医療・福祉に関してや平和、環境問題についてなど、会員寄稿をお待ちしています。

事務局の杉野までご連絡ください。076(222)5373

会員リレーエッセー ◆◆158◆◆

十月二十二日、今日は秋晴れです。空気は澄んで、白山、大日山、鞍掛山、富士写ヶ岳が眺められます。暖かい日で、白山山頂にも雪はありません。白山の女神、くくり姫様、ありがとうございます。

昨夜は、白山診療班の夏山診療慰労会があり参加しました。医師、医学学生、白山観光協会の方、約四十人の参加で楽しく夏山診療を振り返りました。

その一部を紹介します。医師、医学学生、関係者、皆無事に活動を終えることができ良かったです。昨年よりも多くの医学生が白山に登つてくれて、室堂の診療所がにぎわいました。医学学生たちは、先輩医師の診療活動を見て勉学意欲が増した、白山の大自然の素晴らしさに感動した、など良い感想を述べました。

だれかが、この文を読んでおられる先生方にお願いをして下さるようお願ひ、診療所に顔を出します。学生の相談相手になつていて

帶刀 裕之 (小松市・内科)

改善するべき点としては、登山する医師数が少なく、医師不在の日があること

です。学生だけでは診療できず、患者さんは前にして戸惑うことがあります。

この文を読んでおられる先生方にお願いをして下さるようお願ひ、診療所に顔を出します。学生の相談相手になつていて

だければ幸いです。

大先輩の山口先生は、「私でも登つていいのだから、若い医師はもっと登つて欲しい」と話されました。その通りです。僕も来年は一泊二日でなく、二泊三日で登りたいと発言しました。来年度も、関係者の団結と協力で、白山登山者の命、健康を守りたいものです。

数独

二重枠(2つあります)に入った数字の合計はいくつになるでしょう。

【ルール】

- 空いているマスに、1から9までの数字のどれかを入れます。
- タテ列(9列あります)、ヨコ列(9列あります)、太線で囲まれた3×3のブロック(それぞれ9マスあるブロックが9つあります)のどれにも1から9までの数字が1つずつあります。

(答え3面)

パズル制作/ニコリ

SUDOKU

			7	9				1
3	1					4		
4	8					5		
2	1				8	5		
					3			
			7	2			6	4
					5	1		
	7				4	2		
3			6	2				



白山診療班の夏山診療慰労会に参加(前列右から4番目が筆者)

餌業となる。

のを配り、亥三郎の気概を示すものだった。十一代目

越前屋一族の亥三郎は、三郎さん、十二代目熟さん

江戸時代から盛業であった平松屋に加わり、十代目平

亥三郎となり市中商人として辣腕を振るう。当時は

松亥三郎は奇術に魅せられた。近江町市場や中央卸市場

でお菓子の販売・卸を営み、

三郎さんは奇術に魅せられた。松旭斎天洋に入門、テレビ

にも出演して「近江町の手品師」と言われた変り種。

現在は、十三代目の平松

隆さん(三十九歳)で、金沢工大出身の技術屋さん。

女性などに人気を博している。

が「無添加パン」を製造販売。

アレルギーの人や妊娠中の女性などに人気を博してい

る。お店に入ると、古い時代の「平松屋の半纏」が表

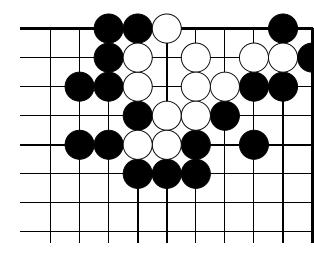
装され、壁に掛かっていて

趣がある。

囲碁

初級編 ■出題 九段 石榑郁郎 黒先 7分で1、2級以上

<ヒント> 1、3の好手順で白をダメツマリにします。



(解答は3面にあります)

将棋

初級編 ■出題 九段 西村一義 銀歩留角持駒 金銀

6	5	4	3	2	1	銀	王	留	角	持駒	金銀

<ヒント> 竜を取られないように……。10分で2級

(解答は3面にあります)